

第64号

令和6年10月1日

理窓

理窓教育会報

東京理科大学理窓教育会

事務局 PORTA 神楽坂 6 階

巻頭言 「 「デジタル人材」の育成を図る学部学科の新設—創域情報学部と科学コミュニケーション学科—に期待する 」

東京理科大学理窓教育会会長 富岡 康夫(48 理・化)

公益社団法人発明協会主催の全日本学生児童発明くふう展の審査員としてお手伝いしています。今年で第82回を迎える伝統あるコンテストです。我が国が科学技術創造立国として発展するための重要な子どもたちの発表の場で、後援の文部科学省、特許庁をはじめ多くの団体、企業が参加しています。ここでいくつかの目に留まった作品を紹介します。第80回の恩賜記念賞受賞の「自動換気装置エア・フレッシュ」神奈川県私立聖光学院生徒の作品で、部屋の二酸化炭素濃度が基準値以上になると自動的に窓が開き、下がると閉じる装置です。次は第81回の内閣総理大臣賞受賞の「AI搭載！点字習得装置」福島県私立桜の聖母学院高等学校と福島市立北信中学校生徒の共同作品です。これらの作品は実際に手に取り、動作を確認することができ、共通していることは機械の動作とプログラムを合体させた作品です。審査で動作を確認すると、感動せずにはいられませんでした。さてこのような作品を生み出す生徒が育つ教育とはどのような環境が必要でしょうか。教育会の皆様と考えてみたいと思います。

東京理科大学では2026年4月より、野田キャンパスに創域情報学部(入学定員360名)を、神楽坂キャンパスに理学部一部科学コミュニケーション学科(入学定員80名)を開設します。

創域情報学部については、情報技術の重要な2つの側面である「コンピューティング」と「データの分析・運用」の両方を、「C(Computing)系」と「D(Data integration)系」としてC系、D系の2系として設置します。両者が補完し合うことによって真のイノベーションを可能にすることを目指しています。各系の学生は2年次で基盤や理論を扱うコースと主に応用を扱うコースに分かれて、それぞれの専門人材育成を目指します。

また、理学部一部科学コミュニケーション学科については、授業科目は「コース専門科目群」と「科学コミュニケーション科目群」の2つの専門科目群から構成されます。情報科目、データサイエンス科目、サイエンスコミュニケ

ーション科目を通して科学を「伝える」能力を育成し、高度科学コミュニケーション人材を養成します。以上概要です。日本経済新聞社等が行った上場企業等の調査「デジタル系人材の育成に期待する大学ランキング」でこのような大学の取組が評価を受け、並みいる有名大学の中から本学は第一位を獲得しました。

また、2024年から文部科学省はDXハイスクール推進事業を打ち出し、1校当たり、1,000万円で、1000校をデジタル教育のインフラ等の充実のための高等学校を募集しました。私自身広報のために全国に応募要領を発信しました。2025年度の予算要求でもさらに継続を含めて、250校を追加募集し、1250校の計画です。実施の具体例を文部科学省のHPには高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)事例集として掲載されています。新たな取り組み方法として大きな参考となります。高等学校にも専門学科「情報科学科」が設置され始め、今や我が国の次の教育の方向は「デジタル系人材の育成」に向かっているように思います。

さて、理窓教育会が中心となって支援する大学主催「坊っちゃん科学論文コンテスト」の今年度第15回の応募状況は、昨年度より30件以上増え253件の研究論文の応募がありました。松原秀成実行委員長よりうれしい悲鳴が届いています。内容も一段と高度で、よく検討された高校生らしい論文が増えています。11月10日には最優秀賞を決める発表会を神楽坂校舎で秋山仁審査委員長のもと開催されます。

大学も創立150年を2031年に迎え、葛飾キャンパスへの薬学部の移設、先に述べた情報系の学部の新設と様々な取組みを実施しています。同窓教員のネットワーク構築などに積極的に参加して交流研鑽を務めて行こうではありませんか。支部等の活動を益々盛んにし、理窓教育会の発展を願います。

(文華女子高等学校名誉校長)

第1号議案 令和5年度 会務報告

1. 東京理科大学理窓教育会総会 令和5年度も、「書面総会」の形式で実施した。

- ① 令和5年度の会務報告及び会計報告。 ② 令和6年度の活動計画及び予算案。
② 理窓教育会理事会などは今回もコロナ禍の安全を考えZoom配信理事会で実施した。

2. 組織の充実・強化に関して

① 各支部の活動状況（各支部からの報告事項から）（会報63号からのまとめ）

- ・北海道支部総会（能登啓児支部長から、近況報告あり令和6年度は総会を開催したい）
- ・青森支部総会（村本卓支部長から、青森支部と合同で開催。「おもしろサイエンス」は8月に実施）
- ・岩手支部総会（佐藤尚支部長から、情報交換会・懇親会として復活できた）
- ・秋田支部総会（長岐康彦支部長から、4年ぶりに復活。理窓会支部との連携が深まった）
- ・群馬支部総会（関根正弘支部長から、11月群馬支部総会と共催、楽しい会でした）
- ・埼玉支部総会（金井信也支部長から、7月埼玉支部総会と共催、年2回の幹事会も開いた）
- ・東京支部総会（富岡康夫支部長から、5月対面の総会を実施、午後東京支部総会后、懇親会を共催）
- ・千葉支部総会（風戸正教職員部会長から、8月に実施した。若手教員も参加した）
- ・神奈川支部総会（田中均支部長から、10月に実施し、27名が参加した）
- ・山梨支部総会（橘田多喜夫支部長から、山梨支部総会と合同で10月に実施した）
- ・静岡支部総会（樋口和男支部長から、野田校舎、神楽坂校舎の方々からの報告があった）
- ・信州支部総会（清水史明支部長から、支部総会と合同で開催した。30名が参加した）
- ・富山支部総会（近藤智久支部長から、今年も8月に富山支部と重ねて開催できた）
- ・福井支部総会（油谷泉支部長から、まず、会員の加入促進に取り組んでいる）
- ・岡山支部総会（三浦康男支部長から、教育会と支部が合同で開催できるように努力中）
- ・広島支部総会（板倉宏治支部長から、今年も10月に広島支部総会と合わせて開催できた）
- ・徳島支部総会（濱本寛信支部長から、支部総会11年ぶり開催。6年度は教育会も合同で行いたい）
- ・佐賀支部総会（森永和雄支部長から、4年ぶりに2月に開催。県内会員全員に案内状を送った）
- ・宮崎県支部総会（児玉康裕支部長から、宮崎県の教員採用に関する報告があった）

② 会報発行（今年度もコロナ禍を考慮し、少人数で集まり発送作業を行った）

- ・第61号 令和5年4月発行
- ・第62号 令和5年10月発行

3. 大学との新たな連携事業

① 大学との高大連携への協力

令和4年度、大学側より依頼を受け、高大連携への具体的な活動がスタートした。現在、「東京理科大学同窓教員ネットワーク『TUS Linkage』」への加入を進行中である。

② 第14回「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」分野別審査会への協力及びオンライン発表会への支援。今回の特色は、分野別審査員として現職教員を含む48名の協力体制で臨んだ。

4. その他の活動（教育会主催）

① 編集委員会

- ・令和5年7月 第62号の発行について
- ・令和6年1月 第63号の発行について

② 「若手教員ネットワークの会」について

- ・10/29（日）第18回ホームカミングデーを活用し、教育会として第3回「懇談会」を実施した。参加者は、若手教員50名、教育会OBが20名。合計70名であった。
- ・令和6年3月3日（日）Zoom幹事会の開催

第2号議案 令和5年度 会計報告(案)

令和 5年度 会計

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
前年度繰越金	34,315	34,315	0
納入会費	300,000	294,024	-5,976
雑費	0	800	800
理窓会正会員協力金	10,000	6,300	-3,700
合 計	344,315	335,439	-8,876

[支出の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
交通費	40,000	17,000	23,000
慶弔費	10,000	0	10,000
会議費	0	0	0
支部長会積立金	0	0	0
事務費	10,000	14,180	-4,180
会報2回の印刷費, 封筒代	145,000	129,140	15,860
全国会員への会報等の郵送費	105,000	96,888	8,112
HPページ更新,オンライン活用等	20,000	0	20,000
会長交流費	0	0	0
予備費	14,315	10,000	4,315
小 計	344,315	267,208	77,107
次年度繰越金		68,231	
合 計	344,315	335,439	

第4号議案 令和6年度 予算(案)

令和 6年度 予算

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算
前年度繰越金	68,231
納入会費	300,000
理窓会正会員協力金	7,000
合 計	375,231

[支出の部]

科 目	予 算
交通費	50,000
慶弔費	10,000
会議費	0
支部長会積立金	0
事務費	13,000
会報印刷費等	145,000
全国会員への郵送費等	120,000
HPページ更新,オンライン活用等	20,000
会長交流費	0
予備費	17,231
合 計	375,231

※ 納入会費 1,500円×214口-(口座徴収料金 16,931円+印字サービス料金他 10,045円)=294,024円

[口座徴収料金内訳 152×78人+203×25人=16,931円, 印字サービス料金他10,045円]

※ 予備費の支出は原稿依頼謝礼図書カード5名分(2,000×5)

※ 令和6年度予算案 納入会費(1,500円×200口=300,000円)予定

※地区別支部長会費会計報告及び令和6年度予算(案)

令和5年度 会計

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
前年度繰越金	772,525	772,525	0
本年度会計より	0	0	0
受取利子	6	6	0
合 計	772,531	772,531	0

[支出の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
地区別支部長会費	250,000	0	250,000
令和5年度教育会会計への補填	0	0	0
予備費	522,531	0	522,531
小 計	772,531	0	772,531
次年度繰越金		772,531	
合 計	772,531	772,531	

令和6年度 予算

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算
前年度繰越金	772,531
本年度会計より	0
受取利子	6
合 計	772,537

[支出の部]

科 目	予 算
地区別支部長会費	250,000
令和6年度教育会会計への補填	0
予備費	522,537
合 計	772,537

会 計 : (各担当理事) 齋藤常男 竹村精治 臼田三知永 平岡盛仁 澁谷重雄

監査の結果, 正確・適正であることを認めます。

令和 6 年 5 月 17 日

監 査

田村 清志

細川 秀夫

金井 信也

第3号議案 令和6年度 活動計画（案）

1. 東京理科大学理窓教育会総会

令和6年度理窓教育会総会は、「書面総会」方式とする。例年と同様に各支部長に議案を送付し、意見等をアンケートの形で回答してもらおう。それを本部で集計し、会報第64号に詳細を掲載して、書面で承認をしてもらうこととする。なお、令和6年度本部（教育会）総会は、対面方式で実施する。

令和6年度の目標：今年度もオンラインを活用した交流会ができるようネットワーク化を推進し、理窓教育会の充実と活性化を図る努力を継続する。

2. 各支部総会

各支部での実施状況を、会報第65号（令和7年4月発送予定）に掲載する。

3. 地区別支部長会

地区別支部長会は、現実的には実施できず、10数年以上前から書面総会として実施されてきた。地区別支部長会を開催する場合、各支部長さんへの旅費などの補助ができないことが、一つの大きな理由であり、実施できないのが現状である。

4. 広報活動

- ・第64号、第65号の発行とネットワーク化の推進。クロネコゆうメール便では、送る封筒に開封部分をつけることが義務づけられ、また、鑑文などの信書などが封入できなくなりました。そこで、会費納入については、最終頁の前頁に会費納入の振込用紙を貼付けました。
- ・各地区支部長Zoom会の開催を目指す。（書面総会アンケート回答用紙にメールアドレスを回答して頂く）

5. 財政の健全化に向けて

- ① 各支部では、本部への年会費（1名あたり1,500円）の納入の呼びかけを一層進め財政の健全化を目指す。
- ② 各支部においては、若手教員など会員の加入促進の工夫に努めて、支部の活性化を図るため、できるところからZoom配信等を活用し、情報交換会に取り組む。

6. 会員の拡大

同窓の教員に会報を送付し、オンラインなどを用いた会員の交流を広げ、会員の拡大を図る。

7. 大学との協力促進

- ① 教員希望学生への指導、採用試験等の情報提供については従来通り実施し、多くの後輩が教職に就けるよう協力する。また、キャリアセンター（就職課）ガイダンス、面接指導への講師派遣、教育センター講座への講師派遣等の協力をする。
ア. 趣旨に賛同し、その募金活動を継続推進する。
- ② 大学の学生募集の協力。
ア. 高大連携を含み学生募集広報に協力する。
- ③ 公立学校採用第二次選考試験及び私学採用試験対策講座等への面接指導講師派遣に協力。
- ④ ホームカミングデー運営への協力（実施日は、会場：野田キャンパス、11月24日（日）の開催で決定）
（第19回ホームカミングデーは、「理窓会」と「理大祭」の合同開催となります。）
- ⑤ 「第15回坊っちゃん科学賞」の審査・発表会への協力（すべてを第11回大会前（コロナ禍以前）に戻し、対面方式で実施する。会場は今年度と同じく、神楽坂キャンパスで計画、実施日は11月10日（日）午後1時開会の予定。会場：理科大神楽坂キャンパス211教室。

8. 若手教員ネットワークの継続化

Zoom配信による幹事会を継続化し、ネットワーク会の全体交流会・研修会などの開催を目指す。また、大学の方針の1つ高大連携の活動に寄与できるように努力する。具体的には、10月20日（日）第4回目の研修会を含む懇親会を開催する。

総会 総括

令和 6 年度理窓教育会総会は、昨年度と同様「書面総会」の方式をとらせていただきました。従いまして、議案に対するアンケート形式を採り、全国支部長の皆様の意向を集約させていただきました。

◎ 集約の結果

回答のあった支部数 26 (昨年度 19)

1 号議案 賛成 26 反対 0 白票 0

2 号議案 賛成 26 反対 0 白票 0

3 号議案 賛成 26 反対 0 白票 0

4 号議案 賛成 26 反対 0 白票 0

① 議案に反対する意見はありません。

② ご意見等のあった支部数 0

以上、支部からの回答を吟味しまして、各議案のすべてをご承認いただいたことにさせていただきます。

以上、令和 6 年度総会は、各支部長等皆様のご協力により、無事終了させていただくことができました。皆様方のご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

※いただいたご意見等は 10 月 18 日の定例理事会で検討をする予定です。



(理窓教育会拡大理事会 zoom 会議 060426)

管理職への昇格

令和 6 年度の人事異動で、多くの同窓生が管理職に昇任されました。心からお祝い申し上げます。

【北海道】

宮本幸紀 平 4 理数 北海道豊富高校長

【秋田県】

金子 淳 平 1 理工数 県立秋田北高校副長

岩見 進 平 9 理工数 県教委主任指導主事

【千葉県】

平山孝一 平 2 理工数 県立船橋芝山高校長

菅原大介 平 3 理工応生 県立白井高校副長

三橋正稔 県立君津高校頭

【山梨県】

望月英宏 平 9 理応物 甲斐市立竜王北中学校頭

【長野県】

小林雄一 平 5 理工数 長野県白馬高校長

【岡山県】

荻野康正 59 理工数 岡山県瀬戸内市教育長

【熊本県】

光永幸生 61 理工数 熊本マリスト学園中高長

以上、名簿到着の都道府県の昇任者のみ掲載です。



(理窓会全国支部長会)

理窓会 支部長会

理窓会副会長 松原 秀成(45 理・物)

理窓会全国支部長会が6月23日(日)午前11時より神楽坂校舎1号館17階大会議室で行われた。

今回は、正味1時間の時間帯で実施された。会のスタイルは、昨年意見交換会的なものではなく、下記の内容で理窓会の活動の方向性を報告する形となった。そして、今日的課題として意識して実践することが求められる「理窓会におけるダイバーシティの取り組み」のための専門家の講演を拝聴する全国支部長会となった。その次第は、以下の通りである。

- 1, 増淵忠行会長 挨拶
- 2, 報告事項

- (1) 会紙「理窓」の発行について
- (2) ホームカミングデーへの支部の参加について
- (3) こうよう会との覚え書きについて
- (4) ホームページについて

- 3, 特別講演

演題：「多様性とは何か？－無意識の偏見との向き合い方－」

講師：菊地真実 先生

(帝京平成大学薬学部教授・理窓会ダイバーシティ委員会委員)

コロナ感染が昨年5月から第5類に指定されたこともあり、北海道支部から沖縄支部まで、39支部長が参加。海外支部からはインドネシア支部の参加があった。

特別講演の菊地真実先生の講演は、「共生社会とダイバーシティの関係」など事例を具体的に挙げられた講演で理解しやすかった。理科大のダイバーシティの取り組みと連携しながら、今後の理窓会活動の指針になっていく方向性が提言された思いであった。

進行は松原副会長が務めた。冒頭の増淵忠行会長の挨拶では、コロナ感染で社会の働き方を含め、大きく変化した。今後の理窓会の方向性を「約20年間続けた理窓会ルネッサンスから理窓会リボン」へ舵を切りたいと

決意を述べられた。また、今回も名誉会長の山田義幸氏と顧問の石神一郎氏が同席された。

最後に、今年度も海外支部が参加できるようさらなる実践化を図りながら推進することを確認し、支部長会が終了した。

理窓会 代議員総会に出席して 理窓会代議員 並木 正(55 理・物)

令和6年6月23日に11時から支部長会・代議員総会がありました。代議員総会の前に支部長会があり、代理やZoom参加を含めて38名が参加していました。Zoom参加はインドネシアと英語国支部でした。支部長会で講演会があり、「多様性とは何か？－無意識の編偏との向き合い方－」という演題で、自分の中にある、多様性を妨げる固定観念との向き合い方についてダイバーシティ委員会委員会委員の菊地真実さんから講演がありました。

午後1時から代議員総会が1号館17階の記念講堂で行われました。冒頭、濱本隆之理事長からこれからの理大の在り方についてお話がありました。このあと、並木の司会で、議長を選出して、議場出席代議員119名、書面出席74名、欠席代議員5名の総代議員198名で、開催されました。司会の私が質問を受け付けずに先へ行こうとすると、会場から質問を受け付けてほしいと要望がでて、4件の議決議案はすべて過半数以上の賛成をもって可決しました。議決事項1は「2023年度理窓会会務報告について」です。議決事項2は「2023年度理窓会収支決算ならびに監査報告について」です。議決事項3は「2024年度理窓会事業計画(案)について」です。議決事項4は「2024年度理窓会予算(案)について」です。

この後、15時15分からインテリジェントロビールコにて同窓懇親会が開かれました。濱本隆之理事長、石川正俊学長、田澤敏一こうよう会副会長、酒井陽太維持会会長の来賓の方々も参加されて、懇親を深めました。

**令和 5 年度 《第 15 回》
「坊っちゃん科学賞研究論文
コンテスト」について
実行委員長 松原 秀成(45 理・物)**



この写真は、昨年 11 月に開催した第 14 回コンテストの優秀賞 5 校の中の東京都立科学技術高校の発表中の写真です。生徒の前に座って審査を行っているのが秋山先生を初め各分野の教授の先生方です。昨年 5 月にコロナ感染が第 5 類になりましたので、発表する 5 校の生徒さん達にお越しいただき対面によるプレゼン発表会にいたしました。

教育会の先生方には、分野別審査会において多数の先生方に、200 件を超える全国高校生達の研究論文審査を行って頂きました。教育会の先生方のお陰で脈々と本コンテストが現在まで継続化が図れています。心から感謝を申し上げます。

さて、本年度「第 15 回坊っちゃん科学賞」の開催方法を次のように変更しました。

【開催方法】

- 各分野 5 校の代表の高校生による対面発表会とする。
- その他、応募校の先生方や高校生の皆さんには、当日、発表会に参観できる体制にします。そして、今回も「動画」を制作し理窓会ホームページに 12 月中旬を目途に公開する予定です。

【開催期日・時間・会場】

- 令和 6 年 11 月 10 日（日）午後 1 時開始
- 東京理科大学 2 号館 211 教室（階段教室）
- 今回の特色

①発表会は、応募校すべてに拡大し参観できるように取り組む。

②発表会を動画録画し、編集後、12 月中旬より理窓会ホームページに公開する。

高校生の皆さんの研究論文は、内容・方法などが年々レベルアップされており分野別審査を担当されておられる教育会の先生方も審査において、ご苦労があるようです。

結びに、石川正俊学長先生には、第 13 回・14 回発表会の 2 年間連続して開会から最後までご出席をいただきました。そして、研究に携わった高校生に「研究を通して、上手くいった研究は勿論、価値はありますが、上手くいかなかったり失敗したりした研究こそ価値があるといえます。この失敗が次の課題に繋がっていく財産になると信じています。」と話されました。参加している高校生の皆さんは、真剣そのものでした。

そして、教育会の皆様には、本会報などを通して第 15 回発表会のご報告をさせていただければと思います。教育会の皆様におかれましては、今後とも「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」に、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

**理窓会 東京支部総会報告
副支部長 廣瀬 和昭(48 理・数)**

令和 6 年度、理窓会東京支部第 22 回総会は 5 月 26 日（日）13 時 30 分より理科大学神楽坂キャンパス 1 号館 17 階記講堂で、オンラインで実施され、総会后、隣の大会議室にて懇親会が開催された。

総会は、今村彰啓副支部長が司会を務め開会挨拶を支部長増田律子が行った。議長は規程により増田支部長が務めた。

議事は、令和 5 年度活動報告・収支決算・監査報告が報告され承認可決された。そして、令和 6 年度活動計画・予算が報告され承認可決された。

次に、司会廣瀬和昭副支部長より報告会の

案内があり、大学の兵庫明常務理事より「大学の現状」、酒井陽太維持会長より「維持会の現状」、理窓会の増淵忠行会長より「理窓会の活動報告」があった。

次に、司会の三浦和彦理事より講演会と講師のプロフィールの案内となり、石川正俊学長より、演題「新しい科学技術の社会受容性」の講演へと進められた。

要旨は、最近日本のゼロベース経済の凋落ぶりは科学技術の構造にも反映され、『前例がない』『エビデンスがない』などで新規性・進歩性を NG として社会受容性的発想に乏しいために、我が国より GAF A 的企業の起業は難しいとの指摘があり、我が校のポリシー科学技術の構造を異次元に構築する重要性を再認識できて、石川学長のご教示に多数の参加者の方々が、改めて感動されていた。

そして、記念集合写真撮影後、隣の大会議室にて懇親会が催された。

若手教員ネットワークの会

令和 6 年 3 月 24 日（日）午後 6 時～「若手教員ネットワークの会」Zoom 幹事会。若手の会幹事 10 名。教育会 11 名。合計 21 名。



新任教員の抱負

昭和女子大附属昭和中学校高等学校

教諭 小林 沙祐佳（令 5 理・数）

大学 3 年時のインターンシップの授業でお世話になった本校に赴任して、早くも 2 年目となりました。昨年度は中学 1 年生の担任、教科では中学 1 年生と 3 年生を担当し、うまくいかないことも多く、目の前のことに精一杯であったという間の 1 年間でした。

昨年度は、生徒が授業に前向きになれることを意識して 1 年間授業を行いました。特に 1 年生は習熟度別で数学が苦手なクラスだったため、必ず机間指導で 1 人 1 人に声をかけ、個別に対応して理解しているかを確認しました。また、学習習慣を身につけるために復習プリントを解いて、そのやり直しを次の授業で回収し、コメントを書いて返却しました。できたことをしっかりほめて、分からないことは一緒に考えるようにしました。なかなか成績が伸びない場合はご家庭での様子について保護者の方に伺い、保護者の方とも連携しながら取り組みました。

今年度は、中学 2 年生のサイエンスコースの担任、教科では中学 2 年生の本科とサイエンスコース、高校 2 年生の文系数学を担当しています。サイエンスコースを任せただけ、プレッシャーが大きいですが、生徒からも刺激を受けて楽しく授業をしています。

教員になって、生徒との信頼関係を築き上げる難しさと大切さを痛感しています。教員への信頼がなければ、指導する時や好きな教科の授業でも生徒は耳を傾けようとしません。しかし、信頼関係を築くことにより、生徒は苦手な教科であっても「この先生の授業なら頑張ってみようかな」と前向きに取り組んでいくことを実感しました。生徒とコミュニケーションをとり、質問や相談したいと思えるような雰囲気づくりを心掛けています。

まだ自分に足りないことが大変多く、生徒指導や授業で日々悩むことがありますが、研

修に参加したり、他の先生方にご指導いただいたりしながら生徒 1 人 1 人と向き合いよりよい教員を目指します。

千葉県我孫子市立我孫子中学校

教諭 井上 隆浩

(令 5 理学研究科科学教育専攻)

令和 5 年 4 月に我孫子市立我孫子中学校に赴任し、2 年目を迎えました。昨年度は、3 学年の副担任として過ごし、今年度は、特別支援学級(情緒級)の担任、1～3 学年(交流学級含む)の教科指導、ICT 主任を任せていただいております。忙しい時間を過ごしつつも生徒と関わる時間を大切に充実した日々を送っています。

今年度の私の目標は、1 つ目に生徒の学び合い活動を活発化させ、「なぜそうなるのか」、「ほかには、解き方がないのか」、「わからない」などの発言が、グループ内ででてくるように指導したいことです。2 つ目に特別支援学級の担任として特性に合わせて生徒が過ごしやすい環境を整えることと時間を守って、行動できる生徒を育成することです。今回は、教科指導について書かせていただきます。

私は、生徒に「何か 1 つでもできるようになってもらいたい」という思いがあり、教員を志望しました。しかし、実際に教科指導をすると、数学が苦手な生徒は「どう解いたらよいかわからない」、「どうせできない」とやる気をなくしている現状がありました。やる気をなくしている生徒に対して「どのようにしたら、少しでもできるようになるのか」と考えたときに「隣で一緒に考えたり、解いたりするサポート役が必要なんだ」と学びました。私は昨年度の教科指導で、生徒主体で学んでいく「学び合い」という授業スタイルを学び、授業実践をしました。その中で「生徒がわからない時の対応」という課題がでてきました。私は、その課題に対して個別指導で「教科書のどこを見たらよいのか」、「どの公式を使ったらよいのか」、「求めたいものがこれだから、何が必要なのか」とい

うポイントを提示すること、できた生徒がいたら「グループでわからない人がいたら教えてあげて」と声かけをしたりするなどを積極的に行い、サポート役に徹することができました。

今年は、昨年の反省やできたことを活かして、生徒のみで学び合い活動ができるように、私自身も授業の支援方法を模索しながら学び続けていきたいです。

東京都立深川高等学校

教諭 眞島 光海 (令 5 理 2・数)

教員として生徒と関わり始めて、2 年目になりました。私は教員採用試験を数学で合格したのち、深川高校には情報科での配置となりました。初めは、自分が高校生だったときとはいろいろと変わった科目を教えられるのか不安を感じました。しかし、それを生徒に悟られてはならないと、必死に教材研究をしながら、気づけば 1 年目を終えていたように思います。また、本校で情報は一人教科のため、教科主任の業務や IT 関係の業務を任せられ、密度の濃い初年度を過ごしました。今年度は 1 学年の担任と運動部の主顧問となり、更に密度の濃い 2 年目を過ごしています。

「数学なんて使わない」ではなく「数学って面白いかも」と生徒に思ってもらいたいというのが教師を志す上での目標でした。今、数学は教えていませんが、それは情報でも変わりませんでした。近年、悪ふざけ投稿や SNS でのトラブルが問題になっています。そして私自身、コロナ渦の大学生活でオンライン授業を経験し、メディアリテラシーや情報モラルの重要性を感じました。生徒が被害者にも加害者にもならないように、どう学習内容を伝えればよいのかを考えています。

夏期講習では数学を担当しました。久しぶりに生徒の「わかった」「なるほど」という表情をみた気がしました。それを情報でも引き出すために、もっと工夫が必要だと思いました。その後のプログラミングの授業は、難易度や内容をどうするかとても悩みました。ただ、こちらの想像以上に生徒は楽しんで取

り組んでいて、私の方が勉強になりました。最近、街中にあるものや SNS で話題になっているものを「これ授業で使えそう」と思う機会が増えました。それでも、後から、もっと調べておけば、と振り返ることが多く、教材研究に終わりはないことを実感しています。

これから先も、生徒が面白いと思って学びに向かう授業をつくれるように精進していきたいと思えます。

神奈川県立横浜栄高等学校

教諭 片野 佑馬 (令 5 理 2・物)

令和 5 年 4 月から神奈川県立横浜栄高等学校に赴任し、今年で 2 年目を迎えました。現在は 1 学年の担任、部活動の主顧問等を担当しております。さまざまな業務を行う中で、「目指す教師像」の捉え方について変化があり、現在の「私が目指す教師像」について書かせていただきます。

私は目指す教師像として「授業が面白く、頼りたいと思える教師」を目標としています。しかし、業務を行なっていく中で、「授業の面白さ」や「頼りたいと思う」ことの捉え方について、私の想像と生徒の考えに違いがあることに気づきました。「授業の面白さ」について、私は生徒が実体験を持ってわかりやすいと感じることのできる授業が面白い授業であると考えていました。しかし実際に授業を行なっていくと、実体験を伴っていてもそれが生徒の言葉で表現されていなかったり、そもそもなぜその学習を行うのかという動機づけが曖昧だと、わかりやすくても面白いとは感じないということがわかりました。「頼りたいと思う」ことについては、生徒と細かくコミュニケーションをとり、どんな生徒も丁寧に対応していくことが信頼につながると考えていました。しかし、実際は細かくコミュニケーションをとること自体が辛いと感じる生徒もいるし、すべて丁寧に対応していくことが生徒の成長を促すわけではないことに気づきました。一人ひとりの生徒の様子を捉えるのはもちろんですが、適切な場

面でしっかり褒めたり叱ったりできるかどうかを生徒はよく見ており、生徒の信頼に直結すると実感しています。

これらを踏まえ、「学習の動機が明確であり、生徒が実体験を自分の言葉でまとめていくことができる授業」と「一人ひとりの生徒の様子を他の教員や家庭と連携して細かく把握し、褒める場面と叱る場面を明確にした生徒指導」の 2 つを軸に、日々の業務を行なっています。

まだまだ上手くいかないことが多いですが、学び続ける心を忘れず目指す教師像に近づいていきたいと思えます。

埼玉県羽生市立西中学校

教諭 吉田 芽生 (令 5 理・数)

教員生活を始め、早くも 2 年目となりました。今年度は、2 学年の担任と女子バレーボール部の顧問をやらせていただいております。初めてのことでばかりで、日々周りの先生方と生徒に支えてもらいながらですが、試行錯誤し、充実した教員生活を送っています。今回、新任教員の抱負として、私が今後の教員として目指す姿、授業等への思いを書かせていただきます。

私が教員として最も大切にしていることは授業です。数学を得意でなくてもいいから、嫌いにならないでほしいというのが私の一番の思いです。昨年、「先生、私解けちゃいました！数学好きかも！」と笑顔で話しかけてくれた生徒がいました。私は、生徒が数学を好きになるのは、問題がわかり、解くことができたときだと考えます。授業では、スモールステップの発問や練習問題にすることを意識し、生徒ができたを多く実感できるようにしています。

発問の仕方やテンポ感、単元のつながりや 3 年間を見据えた指導などまだまだ未熟な部分がほとんどですが、今後も学び続ける姿勢を忘れず、その時できる精一杯の力を出し、授業力向上に努めたいと思えます。

また、生徒と過ごす時間もとても大切にしています。今年度は、担任や主顧問として生

徒と深くかかわることが増えました。生徒たちは教員の表情の変化や物事に向かう姿勢など本当によく見えています。私は担任として教室にいるときは笑顔を忘れないこと、一日にクラスみんなと一言は話すことを心掛けています。先生、先生と話しかけてくれる生徒は本当にかわいくて仕方ありません。部活動では、未経験のバレーボールですが、生徒と一緒に動画を見たり体を動かしたりすることを意識しています。どんなときも生徒の目線に立って、一喜一憂をともにできる教員になりたいと思います。

まだまだうまくいかないことの方が多いですが、いろいろな人に支えていただきながら、生徒にとっての最善を考え行動できる教員でいられるよう、努力していきたいと思えます。

小学校教員の実践とやりがい 私立成蹊小学校教諭 大久保遥峰（平 28 理・応化）

私は、小学校全科の二種免許状が取得できる「小プロ」を受講しておりましたので学部卒業と同時に小学校教員となりました。1 年目は国立市立国立第八小学校に赴任し 1 年生の担任をしておりました。本当に充実した 1 年を過ごさせていただきながらも理科ができない環境であったため理科専科教諭として 2017 年 4 月より成蹊小学校に着任いたしました。

小学校の理科の授業は楽しいです。一番の要因は学習指導要領の目標及び内容が決まっているものの、指導方法の自由度が大きいことが挙げられます。例えば「物の溶け方」の単元では学習指導要領に「(ア) 物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないこと。(イ) 物が水に溶ける量には、限度があること。」が示されています。教科書



ではシュリーレン現象の提示から入ります。私は、できる限り子供たち自身の考えが中心となる授業を構築していきたいという思いがあり、学習のながれを次のようにしました。

「①白浜と沖縄の海水はどちらがしょっぱいのかという問題を提示しどのように調べればしょっぱさを比べられるか教師が問いかける。②子供は「しょっぱいならたくさん塩が入っているのだから同じ量の海水の重さを量ればしょっぱさを比べられる。」といった仮説を立てる。※その他にも蒸発乾固や飽和を利用した仮説が立つ。③それぞれの考えた仮説（実験方法）が正しいのか検証する。④検証結果を踏まえて海水のしょっぱさ比べをする。」宿泊行事で訪れる白浜と遠く離れた沖縄の海水のしょっぱさを比べるという流れで授業を進めることで先行知識に依存しない、クラスのみんが同じ土俵に立って問題を解決することができました。

誰も答えを知らない問題と向き合い子供たちが話し合いを通して自ら学びを深める姿に立ち会うととてもやりがいを感じることができます。指導方法を自由に考案し長い時間をかけてじっくりと実践することは中学や高校にはない小学校ならではの楽しさと考えています。今後も子供たちが自ら考えながら新しい知を獲得することができるような実践を行っていきます。

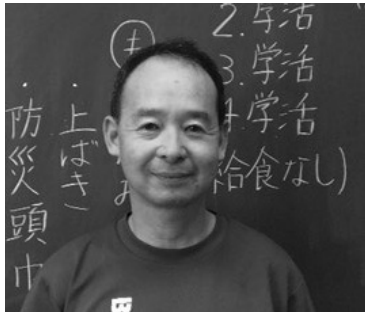
（若手教員ネットワークの会）

なぜ小学校の教員になったのか 東京都世田谷区立砧南小学校教諭 泉 利彦（平 30 理・化 2）

化学科を卒業した理科大出身がなぜ小学校の教員になったのか疑問に思う方もいるでしょう。私がなぜ、小学校の教員になったのか経緯をお話しします。それは、大学 2 年の時に小学校教員養成プログラムというものがあることを知ったことがきっかけです。その時は、取れる免許を全部取って卒業しようという安易な考えでした。また、大学の先生から

「支援員の仕事があるけどどう。」とお話しをいただき、大学3年、4年の時に小学校の支援員として子ども達と関わったことで、小学校も楽しそうという思いが芽生え、採用試験は小学校を受けました。

実際に小学校の教員になると、現実には厳しいものでした。初任校の一年目は、なんと図工専科でした。どちらかというと苦手な図工を2、3年生に週 22 時間教えることは、私にとっては大変苦痛でした。そこで私が心掛けたことは、図工が苦手だということが子ども達に悟られないように、授業を楽しそうにするということでした。その時はとても大変でしたが、1年間で 300 人以上の子ども達と関わったことの経験が、今はとても生きています。授業どころか、座ってられない子、話を聞けない子、字を書くのが苦手な子と、子ども達と日々向き合うことで多くのことを学びました。大変なこともありますが、授業でわかったという時に見せる子どもの嬉しそうな表情を見ると、小学校の教員になってよかったと思います。



最後に、私は年をとってから大学に入学したので、私なりの教員としての子ども達との向き合い方があると思います。今は、4年生の担任をしていますが、他の教科はもちろんですが、特に「理科って楽しい。」と子ども達に思ってもらえるような授業ができるように精進していきたいです。長時間労働など克服すべき課題もありますが、子ども達と共に成長できる教員でありたいと思います。

(若手教員ネットワークの会)

今年度、神奈川県立総合教育センターに異動しました。当センターは、かながわの教育力向上のため、多彩な人材からなる組織の力をいかし、質の高い研修・調査研究・教育相談を行うことを基本コンセプトに、「教育人材育成」と「学校支援」の総合的な拠点として、また、かながわの教育におけるシンクタンクとして、創立 60 周年を迎えました。

さて、中教審からの『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）』では、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することを目指す方向性が示されました。

教師は子どもが ICT も活用しながら自ら学びを調整できるよう、個に応じた指導を充実させ、学習者の主体性を重視し、対話的で深い学びを実現する必要があります。さらに教師の研修等の在り方について、主体的に学び続ける教師の姿は、子どもの重要なロールモデルであり、全ての子どもたちの可能性を引き出すために、教師自身が問いを立て、探究的な学びを教師自らがデザインする「研修観の転換」を図ることが求められています。

このことについては、当センターが、かながわの中心的な役割を担っています。そこで「研修観の転換」を大きなキーワードの一つとして、先に述べた国の動向や、本県の状況を踏まえ、①教師自らがデザインする研修の実現、②効果的・効率的な研修の実現、③社会の変化に対応した講座の設定等を柱に、研修の在り方の見直しを行いました。具体的には、教職経験年数に応じて必ず受講する基本研修をスリム化する一方、国や他都道府県、大学等の研修を含む多様な研修から、教師自らが主体的に選択し受講できる仕組みを構築し、必要に応じてオンライン・オンデマンド研修を組み込んだ構成等としています。

また、これらの見直しを確かなものとするためには「研修と研究の一体化」を進めることが大切であり、センター機能の一つであるシンクタンク機能の充実に向けて、調査研究についても見直しを行いました。研究の柱を、校種・教科による研究と、プロジェクト

**「新たな教師の学び」に向けて
神奈川県立総合教育センター
企画調整部長
小島 嘉男 (63 理・応数)**

による研究の2系統に整理し、後者による研究では、インクルーシブ教育、不登校対策、働き方改革、DX等、今日的な教育課題をテーマの中心として、11本の研究がスタートしています。

最後に、ウェブページ等を活用して、当センターの取組を発信する広報事業にも力を入れています。定期的に発行している「センターだより」も随時アップしていますので、ご覧いただければ幸いです。

同窓の活躍

「それぞれの学校で・・・」
千葉県立船橋高等学校長
風戸 正 (63理・応数)

初任校長として令和2年4月に松戸市立松戸高等学校（以下、市松と記す）に着任した。ちょうどコロナウィルスが世界中を脅かしはじめた時であった。

市松は松戸市教育委員会の進める改革（「市松改革」と呼ぶ）の2年目を迎えていた。改革の柱は、①学力の向上 ②グローバル教育の推進 ③部活動の充実 の3つを打ち出し、単位制の導入、予備校授業の充実、入学者選抜の見直し、台湾修学旅行の導入、海外研修の充実、部活環境の整備などを進めることとしていた。しかし、改革を進めるどころか生徒への授業を提供することが求められていた。校長としては、緊急事態なので機動的に、出来そうなことを、スピード感を持って取り組もうという方向性を示し、教務部や教科等で検討及び準備を行った。早い段階で、課題の配信、そして授業動画の配信にこぎつけられたのも、若い教員集団だからこそ成し遂げられたと思われる。

令和3年度は、海外での研修の代替に、外国人講師による校内研修を実施した。新たに外国人特選で入学した生徒には、取り出し授業を取り入れ個別支援を行い、生徒同士の国際交流が進むよう取り組んだ。

特に、市松での2年間は、「学力の向上」を掲げ、保護者そして中学校から安心して任

せられる学校を目指した。基礎・基本の定着を最優先に、わかる授業の展開を推進した。

市松改革の大きな波と、学校の丁寧な取組が評価され高い志願倍率を得ることができた。

校長2校目として、令和5年4月に千葉県立船橋高等学校に着任し現在に至る。進学実績はもとより、部活動での活躍も多方面から期待されますが、本校の目指すべき姿であることを全職員が認識していることが強みである。

校長として、以下の点を課題としながら学校経営に取り組んでいる。

第一に、生徒の心の健康の維持である。多感な年代であり繊細な生徒が多いので、生徒がいつでも相談できる体制をとる。

第二に、持続可能な指導体制への変換である。進学指導、補習指導、部活指導など、職人である個人から組織へ、そしてノウハウの継承、教員の育成を進める。

第三は、生徒のアウトプットの充実、及び学校外での活動・経験の創出である。

これらを職員と共有しながら、生徒に様々なことを経験させ、心身ともに逞しくなるよう、生徒一人ひとりに目を配りながら教育活動を展開していきます。

大学との連携

臼田 三知永 (57理・数)

教職教育センター内の「教職課程指導室」（指導室）に着任して5年目になります。この指導室での日々の業務の多くが「理科大学と理窓教育会の連携」に位置付けられると感じています。そこで、今回は指導室について少し紹介させていただくことにしました。

指導室には、神楽坂8名、野田3名の嘱託教員が在籍しています。全員が理窓教育会の会員です。中学校や高等学校の教員としての長年の実務経験が強みです。

さて、日々の仕事の中心は、教職の授業です。私は現学期において90分授業を週5コ

マ担当しております。理論だけではなく、経験を生かして指導できる点に遣り甲斐を感じています。履修しているのは教員になることを第一希望にしている学生だけではなく、教員免許を「将来への保険」として取得しておきたいという学生が多いことも事実です。

授業以外にも、教員採用試験対策講座の実施、論作文添削、面接指導、進路相談など多岐にわたっており、一人でも多くの学生を希望する教育現場に送り出したいという気持ちで担当しています。

ところで、8 月には大学オープンキャンパスが開催されました。今年度の神楽坂キャンパスでは、理科大の教職課程説明（定員 70 名、全 4 回）が事前予約で満席になるなど、活況でした。私たちも全体説明と個別相談を担当し、理科大の教職課程をアピールしています。

また、5 月には理科大出身の高等学校の校長先生と大学との懇親会が実施されました。さいたま市で開催された全国高等学校長会に併せての実施でしたが、30 名以上の同窓校長が参加してくださいました。大学からの最新情報が提供され、その後はグループ協議で語り合うなど、貴重な時間となりました。

このように、卒業後も末永く理科大と関わってほしいというのが、大学側の願いであり、私たちの役割にもなっています。教職に就いた後も、大学とつながり続けるための橋渡しでありたいと考えています。

（教職課程指導室 嘱託専門員）

事務局より

1 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は PORTA 神楽坂 6 階の理窓会事務室内に置かれています。

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませんので、ご連絡は郵送でお願いいたします。

なお、お急ぎの場合には、2 の支部長等の

連絡窓口にご連絡ください。

書面での連絡先

〒162-0825 新宿区神楽坂 2-6-1
PORTA 神楽坂 6F 理窓会事務所内
東京理科大学理窓教育会 宛

2 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 松本 明（編集担当）
TEL 03-5228-7335 内線 2781
FAX 03-3260-1776
メール aki_matsu@rs.tus.ac.jp

3 理窓教育会ホームページ

「理窓教育会」と入力すると、開きます。「東京理科大学理窓会」のホームページの中に「理窓教育会」のものがああります。

ホームページアドレスは次の通りです。

<http://risoukai.com/educ/>

事務局からのお願い

今年度から経費節減のためクロネコゆうメールで発送することになりました。これは信書ではありませんので、封筒に切り込みを入れて冊子のみを入れます。そのためヤマトビジネスメンバーズに登録して送り状発行システムで私たちが送り状（タックシール）を印刷貼付いたします。

会費の納入状況をお一人お一人にお知らせできませんので、念のため全員に振替用紙を貼付いたします。

何かお問い合わせがありましたらメールでご連絡ください。

事務局担当理事 小久保 正己
<mkokubo@alumni.tus.ac.jp>

(編集後記) 理窓教育会報第 64 号をお届けいたします。

お忙しい中、紙面総会等でご協力いただいた支部長さん、原稿や記事をお寄せいただいた皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました。

本号は紙面総会の特集です。ご回答と共に管理職への昇格についても数多くの情報をいただきました。そして、Zoom 教育会・支部長会議開催のためにメールアドレスをご報告いただきました。支部長の皆さんのご協力に感謝いたします。

また、理窓会副会長の松原秀成さんに理窓会関連の記事、そして坊っちゃん科学賞研究論文コンテストなどについて書いていただきました。

さらにお忙しい中、5 名の方から、**新任教員の抱負**をお寄せいただきました。**小林沙祐佳さん、井上隆浩さん、眞島光海さん、片野佑馬さん、吉田芽生さん**、コロナ禍の中でのご執筆有難うございました。改めて、**全国の新任教員の皆さんのご活躍を祈念いたします。**

また、**若手教員ネットワーク**のお二人、私立成蹊小学校教諭の**大久保遥峰さん**と、東京都世田谷区立砧南小学校教諭の**泉利彦さん**にレポートしていただきました。

さらに、「**新たな教師の学び**」に向けてとして、神奈川県立総合教育センター企画調整部長の**小島嘉男さん**に、教師自身が問いを立て、探究的な学びを教師自らがデザインする「**研修観の転換**」を図ることなどについて書いていただきました。

そして、**同窓の活躍コーナー**では千葉県立船橋高等学校長の**風戸正さん**に「**それぞれの学校で・・・**」として松戸市立松戸高等学校での取組み、さらに千葉県立船橋高等学校での取組みを書いていた

いただきました。コロナ禍の中で大変なご苦労があったことと思います。

会員増強が大きな課題です。教育会報は皆様の会費で作られております。未加入の同窓がおられましたら、ぜひ入会を勧めてください。コロナ禍から対面の行事や会議・親睦会などが思うようにできず苦戦しております。そのためにも、理窓教育会報をこれからますます充実できるように、フレッシュな気持ちで全国の皆様と取り組んでいきたいと考えます。

支部のニュース等がありましたらお知らせください。ご質問やご意見等がありましたらメールでご連絡ください。

令和 6 年度は、Zoom を使って、全国の支部長さんたちの会議を行います。メールアドレスの準備はできております。今から楽しみにしております。

事務局担当理事 小久保 正己
<mkokubo@alumni.tus.ac.jp>

振替用紙
貼付位置

4 会費納入状況

会費納入の状況は以下の表の通りです。令和6年度は8月31日現在の納入数です。

【送金方法に関するお願い】

同封の赤い振込用紙をお使いになり、ゆうちょ銀行で送金する際、窓口 203 円、ATM152 円の手数料が理窓教育会から徴収されております。そのため、窓口ではなく ATM を利用していただけると有り難いです。また、住所等に変更がない場合には、「ゆうちょダイレクト」による送金（月 5 回まで手数料が無料）をお勧めします。ただし、漢字による通信ができないため、本人確認のため、お手数ですが、氏名、住所、電話番号をカタカナで入力していただきますようお願いいたします。

【各支部会計担当者へのお願い】

各支部の活動時に会費を集金した場合、納入者の住所・氏名の一覧表をメールで会計担当まで送っていただくと、会報をご自宅にお届けすることができます。会員の皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

なお、郵便払込取扱票の口座番号などは、次の通りです。

(口座番号) 00160-9-715349

(加入者名) 東京理科大学理窓教育会

会計担当理事 57 理・数 平岡 盛仁 m.hiraoka@rs.tus.ac.jp

57 理・数 臼田三知永 usuda.m@rs.tus.ac.jp

理窓教育会 支部別会費納入数

県名	3年度	4年度	5年度	6年度	県名	3年度	4年度	5年度	6年度
北海道			1	1	滋賀				
青森					京都				
岩手	5	2	4	2	大阪				
宮城	5	2	4	2	兵庫		1	1	1
秋田	15	16	16	12	奈良	1	1		
山形	1	1	1		和歌山				
福島	1	1	1	1	鳥取		1	2	
茨城	9	6	4	3	島根				
栃木	1	1		2	岡山	2	7	2	
群馬	5	3	1		広島	37	37	31	1
埼玉	27	8	44	2	山口	2		1	
千葉	13	4	20	1	徳島	1	1	1	1
東京	50	42	52	34	香川				
神奈川	10	10	9	8	愛媛				
山梨	1	1	1	1	高知	1	1	1	
長野					福岡				
岐阜			1		佐賀	1	1	1	
静岡	6	2	6	4	長崎				
愛知	1	1	1		熊本				
三重	1	1	1	1	大分				
新潟	2	2	2	2	宮崎				
富山	1		2		鹿児島		1	1	1
石川					沖縄				
福井			2	1	合計	199	154	214	81

令和6年 8月 31日現在